つじまつ COMMUNICATION

Vol. 27
築地松情報誌2011年3月
発行/築地松景観保全対策推進協議会

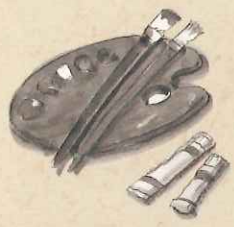
私が築地松に初めて出会ったのは、まだ学生のころ、山陰本線の車窓に次から次に現れる不思議な形の屋根をもつ家と、それをめぐる存在感のある松囲いを見た時でした。

そこが神々のふるさとであることをさりげなく、しかし厳然と示していました。

家に帰った私は、その感動を日本画家である父に伝えました。これがきっかけとなり描かれたスケッチの一枚が今回の表紙です。

このあと三年ほどかけて仕上げた作品が日展に展示されました。このお宅がどちらかわかれば幸いです。

京都大学 農学研究科
教授 川 島 茂 人



「出 雲」 細谷達三　昭和48年5月

〈略歴・紹介〉 日本画家　東京美術学校日本画科卒業　日展会友

世界唯一の屋敷林「築地松」を守るために Vol.1

一般社団法人 日本樹木医会　島根県支部副支部長　佐藤仁志

1. はじめに

表題に「世界唯一の屋敷林」としたのは、築地松のような10mをこす高木の美しい刈り込みを行っている屋敷林は見聞きしたことがなく、それもクロマツを使ったものは世界広しといえどもまずないと思われるからだ。筆者は学生時代に造園学を専攻し、卒業論文で築地松をはじめとする環境植栽をテーマとした。今から40年近くも前のことになるが、出雲平野一帯の築地松をいろいろ見て歩き、そのすばらしさに感動したものである。生まれも育ちも出雲市で、幼い頃から築地松の風景に慣れ親しんできたが、その価値を認識したのは東京で学生生活を送り、外からふるさとを見つめ直したときのことである。

それ以来、築地松には一方ならぬ愛着を持ちながら推移を見守ってきた。しかし、残念なことに「松くい虫」と一般に呼ばれているマツ材線虫病に罹患し、多くの築地松が歯抜け状態になってしまった。とはいえ、築地松の価値は依然として高く、全国に、いや世界に誇れるものと確信している。そして、機会あるごとに市民のみなさんに対しその貴重性を訴えてきたつもりである。

そのような折、出雲市の担当者から、築地松の補植に関して助言文を作成してほしいとの要請があり、協力することとした次第である。

2. クロマツの特性

出雲市や斐川町では、枯損した築地松の補植用に、クロマツの苗が配付されている。出雲市からの要請は、主として配付されたマツ苗の植え方であったが、その前にクロマツという植物の性質をよく理解しておくことが不可欠と考えるので、クロマツの特性から紹介する。

マツ類の代表的な特性としては、まず耐陰性[※1]が弱いことが上げられる。相対照度[※2]100%で最もよく成長する。スギは相対照度が90%、ヒノキは60%であり、ヒノキの苗を育てる場合には寒冷紗である程度日光を遮ってやる必要がある。マツ類は、そのような必要が全くなく、よく日が当たる場所に植えることが肝要だ。林の中の平均的な照度は5%以下である。日光が十分差し込むような場所でないと、発芽したり稚樹が育つことができない仲間を陽樹と呼んでいる。これに対し、わずかな日当たりでも生育することができる仲間は陰樹とよばれている、陽樹の代表はマツ類で、陰樹の代表はシイやカシ類などの常緑広葉樹である。陽樹であるクロマツは、林の中のように日当たりが悪い場所では、照度不足のためタネが芽を出し育つことができない。築地松の補植においても、このことをよく知っておく必要がある。

次に、有機物層が発達した土壌では成育しにくいか、不健全な生育をすることである。一般的な樹木は、肥沃な土壌で旺盛に生長する。庭木の中でも、マツ以外の樹木は、冬期に寒肥などを施してやると元気になる。ところが、マツ類は逆で、寒肥などを施してやると一時的には元気そうになるが、すぐに樹勢が衰退し病気にかかったりすることが多い。このことは、なかなか信じられないことではあるが事実である。

私たち樹木医がマツの樹勢回復を行う場合には、肥料はほとんど施用しない。施肥する場合は、肥料の3要素のうち一般的に最も不足するリン分を施すぐらいである。具体的には、砂状のヨウリンを1㎡に一握りほど撒く程度だ。肥料がほとんど不要なことを一般の人に理解してもらう場合、海岸の岩場で元気に育っているクロマツを思い浮かべてもらうことにしている。例えば、稲佐の浜にある弁天島のクロマツを見てほしい。島は岩でできており、土壌もほとんどない極めて過酷な環境であることは想像できるであろう。このような環境下で丈夫に育っているのは、マツ類が菌根共生しているからだ。

稲佐の浜　弁天島

ショウロ菌と共生し形成された菌根

菌根共生とは、キノコの菌がマツの根と共生し、菌根を形成しているということである。植物の根に菌類が侵入することによって、お互いの組織が複雑に入り組んだユニークな構造が形成される。これが菌根で、菌根を形成する菌類を菌根菌と呼んでいる。

ショウロやアミタケ、マツタケなどのキノコが菌根菌であり、元気なマツ林ではショウロやマツタケがたくさん採れたものだ。これらのキノコが採れなくなったのは、土壌が富栄養化したためである。つまり、以前は燃料や肥料用に枯れ枝や落ち葉を人が掻いて持ち帰っていたが、肥料革命や燃料革命後はそれが山に放置され、堆積して土壌が富栄養化したというわけだ。土壌が富栄養化すると、マツタケなどの菌根菌は生育できなくなり、結果として子実体であるキノコが採れなくなる。菌根共生したマツが元気なのは、前述したように菌根になると根の働きが変わり、植物は様々な影響を受けるためだ。菌根菌は宿主植物から栄養をもらう代わりに、植物の根に対しリン等の吸収促進や耐病性の向上、水分吸収の促進、耐寒性の向上などをもたらすことが知られている。近年、菌根菌が樹勢回復治療の他にも、野菜や乾燥地の緑化、火山噴火地の緑化などで大きな注目を集めている。

3つ目の特性は、乾燥した土地ややせた土地でも育つことである。雨に恵まれている日本では、本来マツ類は尾根筋や岩場など高木性の広葉樹や他の針葉樹が育ちにくい場所にのみ散在していたに過ぎない。クロマツの場合は、弁天島のような海岸の岩場の上が本来の自生地である。なお、外園海岸や浜山などの砂丘地で見られるマツ林は、人の手によって植栽されたものであり、本来の自生地ではない。

※1）耐陰性：日照不足、日光の少ない日陰でも耐えて、生育する性質のこと。
※2）相対照度：林内の明るさを示す方法で、照度計で林内の明るさを測り、同時に裸地でも明るさを測って比較すること。

陰手刈り研修会

平成22年12月4日に、斐川町三分市において、陰手刈りの研修会を実施しました。

当日は、10名の研修生に参加いただき、陰手刈りの技術を学んでいただきました。また、松江農林高校からも39名の生徒さんが見学に訪れました。

講師の陰手刈り職人である坂本芳友さんからは、築地松の景観としての「美」を追求する姿勢が研修生の皆さんに話されました。また、研修に参加された皆さんは、「学んだことを生かし、技術を身につけ、伝統を引き継いでいきたい」と語っておられました。

築地松にふれて

9月29日、斐川町立斐川東中学校の生徒さんが、総合学習の一環として斐川町の瀬崎さんのお宅を訪ね、築地松の歴史などについて学びました。

「日本では島根県にしかない築地松を、これからも大切に守っていかなければならないと思った。」瀬崎さんの説明を聞きながら、生徒さんはこのような感想を口にしていました。

あなたの協定区域内の築地松の見どころを教えてください

築地松景観保全対策推進協議会では、築地松の美しさと力強さを全国へ発信するため、島根県が作成した「マップ on しまね」を利用して築地松を紹介する「ついじまつ見どころマップ」を作成しました。

現在、18 箇所からの美しい築地松の風景を掲載しておりますが、今後も見どころある風景を増やしていこうと考えております。あなたの協定内で見どころある築地松の風景がありましたら、ひと言のメッセージを添えて全国へ発信してみませんか。

▼【掲載イメージ】インターネット上で⇒をクリックすると右側に築地松の写真を見ることができます。

築地松助成制度

築地松の景観を守るため、築地松の剪定や防除に関する助成を行っています。

協定種別		一般住民協定	特定住民協定
基準本数		2 本以上	
助成率		1/3	1/2
助成期間		単年度ごと	
費用別限度額		個別設定	
剪定		30,000 円	45,000 円
枯松伐倒及び新植・補植		30,000 円	45,000 円
松くい虫防除（枯松伐倒等を除く）	地上散布	30,000 円	45,000 円
	樹幹注入	40,000 円	60,000 円

＊枯松伐倒の助成には、伐倒後に必ず補植することが条件です。
＊助成金の申請には、実施前と実施後の写真にあわせ領収書が必要です。
＊助成の対象となる防除薬剤は、農薬取締法により松くい虫の適用範囲とされた薬剤とします。
＊助成金を受けることのできる方は、築地松住民協定を締結されている方です。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県 土木部 都市計画課 景観政策室　〒690-8501 松江市殿町8番地　Tel 0852-22-6143
島根県 出雲県土整備事務所 建築部 建築グループ　〒693-8511 出雲市大津町1139番地　Tel 0853-40-5660
出雲市 都市建設部 建築住宅課 景観係（事務局）　〒693-8530 出雲市今市町70番地　Tel 0853-21-6176
斐川町 環境政策課 環境政策係　〒699-0592 斐川町大字荘原町2172番地　Tel 0853-73-9256

ついじまつホームページ　http://www.tsuijimatsu.com/